

【情報公開文書】

骨粗鬆症性椎体骨折術後に後彎変形を生じる要因に関する研究

1. 研究の対象

2017年4月～2022年3月に当院で骨粗鬆症性椎体骨折に対する経皮的椎体形成術を受けた方

2. 研究目的・方法

骨粗鬆症による椎体骨折に対する治療は、コルセット装着などによる保存療法が基本となりますが、中には長引く痛みや脊椎の変形などのため、手術による治療が必要となる方がいます。骨粗鬆症性椎体骨折に対する手術である経皮的椎体形成術は、骨折してしまった脊椎の中にセメントを注入する手術であり、少ない侵襲で疼痛の緩和が得られ、曲がってしまった背骨（後彎変形）を矯正することができるため、広く行われている手術です。しかし、この手術を行った後に再度脊椎の変形が生じてしまうことがあります。様々な要因が関与していることが考えられていますが、いまだに明らかとなっていない部分も多く存在します。椎骨の間に存在する椎間板は骨折や加齢などにより変性が進行することがあり、脊椎に不安定性をもたらすことがあります。この椎間板がもたらす不安定性と椎体骨折術後に生じる後彎変形の関係については、いまだ不明な点が多いです。

本研究では椎間板と骨粗鬆症性椎体骨折術後に生じる後彎変形の関係を評価する予定です。本研究により、両者の関係が明らかとなれば、今後の手術術式の決定などに影響を与え、手術成績の向上に寄与することが期待されます。

2017年4月1日から2022年3月31日の期間に骨粗鬆症性椎体骨折に対して経皮的椎体形成術を受けた患者を対象とし、術前のレントゲン、CT画像と術後のレントゲン画像を比較し、椎間板の変性所見の有無で術後変形の程度が変化するかについて調査を行います。これらは全て日常診療で得られる項目です。

研究実施予定期間は研究実施許可後から2025年3月31日までとします。

利用を開始する予定日：2023年10月30日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、病歴、治療歴、レントゲン写真、CT画像、カルテ番号 等

4. 外部への試料・情報の提供

当院外への情報の提供は行いません。

共同研究機関からの情報は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で秋田大学に提供し、対照表は、共同研究機関の研究担当者が保管・管理します。

5. 研究組織

秋田大学大学院医学系研究科 整形外科学講座 岡本憲人

秋田厚生医療センター 整形外科 東海林 諒

大曲厚生医療センター 整形外科 阿部 和伸

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

住所:010-8543 秋田県秋田市本道 1-1-1

電話番号:018-884-6148

所属:整形外科学講座

研究代表者氏名：岡本憲人

-----以上